

サービスニュース

今回はマニュアル(手動)操作について説明させていただきます。



マニュアル(手動)操作について

手動焚き回路では着火ミスによるバックファイヤ、空焚き等の重大な事故につながる危険性があります。本サービスニュース及び取扱説明書を充分確認して頂き、ご使用下さい。

①マニュアル(手動)操作の基本的な使い方について

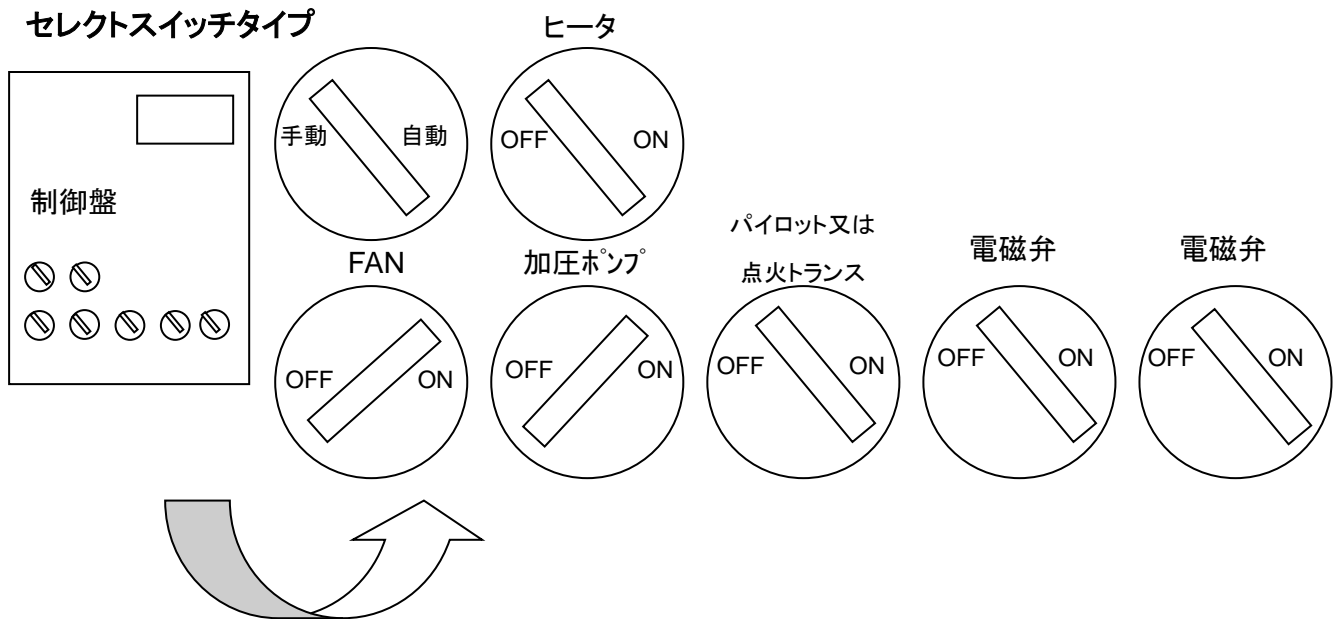
- ・基本的には、ボイラ担当者がついて、その場を離れずに操作を行う事。
- ・何か異常があれば、即時停止出来る体勢で操作を行う事。
- ・マニュアル操作は、非常時の応急的操作方法である旨、認識の事。
- ・機器(各モータ類)の故障判断の為に使う事が出来る。

②マニュアル(手動)操作時の注意点

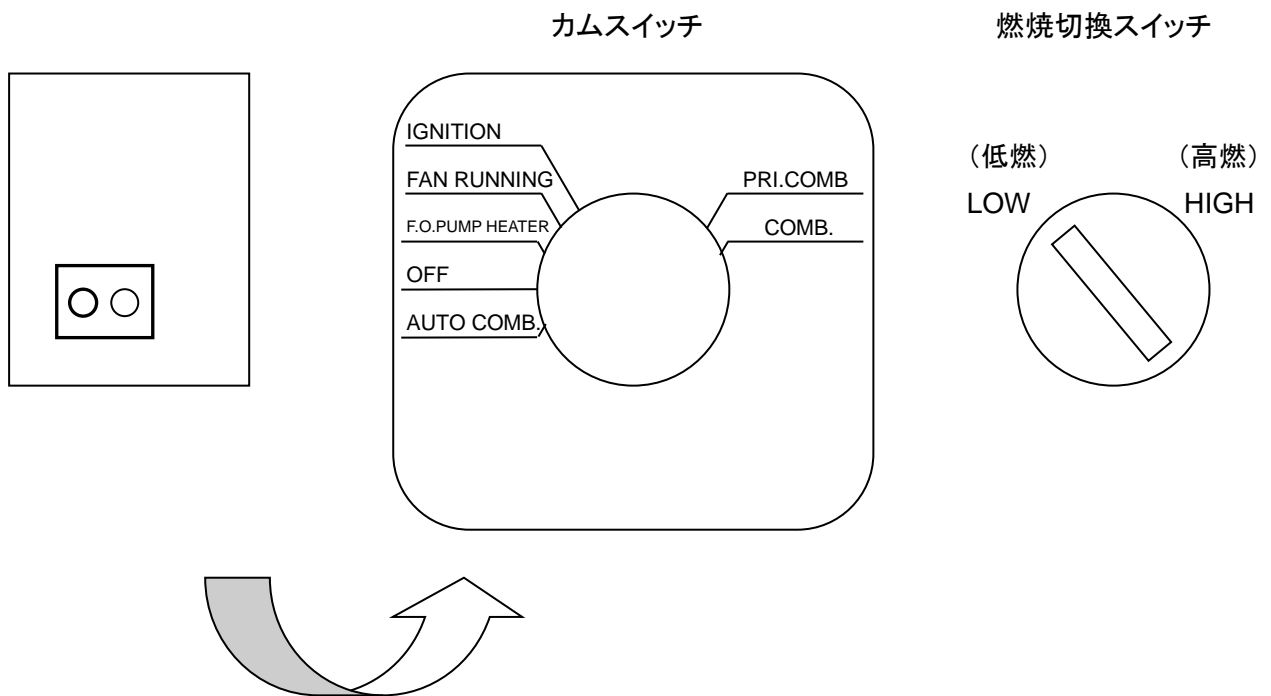
- ・自動焚き回路では各安全装置が働くようになっているが、手動焚き回路の場合は安全装置がキャンセルされる。
- ・操作時には、ボイラに水があるか必ず確認する事。
水面計元弁が開いている事を確認し、両舷の水面計ゲージの正常位置に水位レベルがあるのを確認する事。
※手動焚き回路においても、必要な安全装置の組み込みは可能です。
- ・点火前のプレパージと燃焼後のポストパージは充分(通常 60 秒以上)行う事。
※手動焚き回路におけるプレパージタイム等の後付けは可能です。
- ・点火前に充満した噴霧燃料があると、バックファイヤの危険があります。

③操作盤は2種類あります。

セレクトスイッチタイプ



カムスイッチタイプ('00年8月以降製造分)



④マニュアル(手動)スイッチの操作方法

<セレクトスイッチタイプ>

1. 手動—自動切換スイッチを手動側とする。

2. FANを運転する。

この時十分にプレパージを行って下さい(60秒以上)。

3. F. O. P. を運転する。

循環を始めます。燃焼油の漏れ等ないか確認して下さい。

4. 点火トランス(パイロット)を入れます。

パイロットバーナの場合は、燃焼確認用のグリーンランプで燃焼の確認を行って下さい。
この時、パイロットバーナが点火しないからといって、何度も繰り返しON—OFF操作する事は絶対に止めて下さい。燃焼出来ずに噴霧された燃料が炉内に充満し大変危険です。
注意して下さい。

5. 電磁弁をONにします。

燃焼確認用のグリーンランプで燃焼確認を行います。

パイロットバーナ無しの場合:電磁弁ONから3秒以内でグリーンランプが点灯しない場合はすぐに電磁弁、点火トランス共にOFFにして下さい。

パイロット付きの場合:パイロットからメインに移行時グリーンランプが消える様でしたら、すぐに電磁弁、パイロット共にOFFにして下さい。

6. 4. でONした点火トランス(パイロット)をOFFとします。

- ・以上が手動操作となります。高燃焼がある場合は6番の操作を終えた後、順次高燃焼の電磁弁スイッチをONします。
- ・C重油の場合はヒータのスイッチをONして下さい。サーモスタットまたは温度調節器の作動でON—OFF動作を始めます。
- ・不着火等により、炉内にFOが滴下、噴霧された事が懸念される時はパージを充分に行い、燃焼炉内の温度を下げて下さい。炉内にFOが溜まっていない事を確認してから手動操作を行って下さい。
- ・取扱説明書にも、操作についての注意点等の記載があります。必ず確認して下さい。

<カムスイッチタイプ>

このタイプについては取扱説明書を確認下さい。この場合もプレパージ、ポストパージは必ず充分に行って下さい。

⑤プレパージに関する注意銘板を作成しました。

！ DANGER

**NO BURNER TO BE IGNITED BEFORE THE
FURNACE HAS BEEN PROPERLY PURGED.**

！ 危険

着火前に必ず 十分なパージを 行なって下さい。

ご希望の方は船名、建造造船所、船番を記入し御連絡下さい。送付させていただきます。

⑥最後に

手動操作における安全装置の取り込みについて、御要望のある場合は、弊社船用メンテナンス部へ御依頼願います。

弊社サービスネットワークは下記 URL もしくは QR コードよりご覧いただけます。

<https://www.miuraz.co.jp/product/marine/maintenance/service.html>



ご不明な点がございましたら最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。
今後ともご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。